

令和6年4月25日区長記者会見

【司会】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和6年4月25日北区長記者会見を開始いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私、広報課長の窪田でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、やまだ区長のほか、政策経営部長の藤野と企画課長の栗生、地域振興課長の土屋、大規模区民施設整備担当課長の守屋が出席しております。

それでは、早速ですが、やまだ区長よろしくお願いいたします。

【やまだ区長】

皆様こんにちは。本日は区長定例記者会見、4月の定例会にご出席をいただきありがとうございます。新年度に入りまして、1回目の記者会見であります。今日はしっかりとご説明できるように準備をまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。

そして、今日表紙にさせていただきましたのは、週末、北区の中でも大きなイベントであります赤羽馬鹿祭の映像であります。4月の27日、28日。28日の日曜日は恒例でありますパレードが行われます。ぜひともご都合の宜しい皆様、お越しをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それではまず初めに、安全・安心 No.1 の防災と北区強靱化について、防災対策二点についてご説明をしたいと思います。

過日、区と陸上自衛隊十条駐屯地との防災協定を、災害協定を組ませていただきました。昨年の夏にですね、十条駐屯地の関係者の方々と意見交換をする中で、北区の現状をお伝えした上で、ご協力のお話をさせていただいたところから始まります。

大規模水害時の発生時、特に北区は低地部と高台部に分かれまして、低地部が約35万人のうち20万人の方々が低地部である4つの川に囲まれている北区にとって、水害対策は大きなテーマであります。川の氾濫などが起こった場合に、低地部の方々が逃げ込む先として、高台避難をご案内しておりますが、現状、高台避難をするスペースが足りていない状況で、少しでも多くの高台避難場所を確保していく取り組みを昨年来続けてまいりました。

その一つとして、今回、陸上自衛隊十条駐屯地との協議の中で、駐屯地の中の体育館を災害時に活用させていただき、避難場所として利用できるような形で協定を組ませていただきました。全国の駐屯地での災害時の避難場所としての一時的な利用ではありますが、こういった事例は全国でも3例目、東京都の中では北区が初であります。

いろいろ十条駐屯地の皆様と地域のイベントも含めて交流をさせていただく中で、職員からの提案もあり、実現をした内容であります。これからも区内の高台避難場所確保に向けた取り組みを進めていくとともに、垂直避難についての考え方もさらに議論を進めていきたいなというふうに思っております。

これから自衛隊十条駐屯地の皆様と具体的な訓練内容、避難方法についての協議を今年度始めて、地域の方も含めた訓練に展開をしていきたいなという思いであります。本当に区といたしましても、陸上自衛隊十条駐屯地の皆様のご理解、本当に心強く、改めてご協力に感謝を申し上げたいなというふうに思っております。以上です。

そして、二点目が、昨年来お話をさせていただいておりますが、北区の防災用のシステムを構築し直しを始めております。1年間事業者とのやりとりを開始し、今年度からいよいよ本格的に稼働をします。まず、防災ポータルサイト、5月から運用開始となります。

加えて、夏前には運用開始ができる予定となっておりますが、防災アプリを公開をいたしまして、防災情報をプッシュ型で区民の方々にお伝えしていける仕組みをつくっていききたいというふうに思っております。

また、災害情報システムもシステムを最新のものに変えまして、さまざまな災害情報を、一元的に区の方で発信していける仕組みに変えてまいります。

必要な方々に迅速に情報が提供できるような仕組みの構築に努めていきたいというふうに思っております。システムの導入は今年度から始まっておりますので、これから災害が起きた場合に、行政無線の運用など、こういった形での新しいシステムでの運用になっていきます。

これらのことで、実際どんなことができるようになるんだろうということではいきますと、いくつか例を挙げさせていただきますが、避難所の開設情報、また混乱状況、そういったものをリアルタイムに確認していただける。また、どこの地域で避難情報が発令されているか、地図上で確認いただけるような内容、また、防災行政無線の内容を、テキストで確認いただけるような仕組みにしています。

そして、鉄道各社や携帯電話各社の障害情報を確認できる内容も入れています。

そして、これも結構使っていただけるかなと思っておりますが、コミュニティ機能といたしまして、ご家族や自主防災組織単位などでコミュニティを作っていただいて、メッセージのやり取りなどが可能になっていきます。

メッセージアプリなどにより負荷が軽く、アプリで負荷が軽くなりますので、早く連絡が取れるようになるというふうに思っています。これらの機能をしっかりと区民の方々にお伝えをし、一人でも多くの方々にご活用いただけるようにしたいというふうに思っております。

続きまして、次のページにいきます。経済と環境の好循環を地域力で創出。環境施策について二点であります。

まず、公民連携で、区内発の新しい技術を活用し、環境にやさしいまちづくり、このご協力を区としても関わらせていただいております。

国内で初めてとなる浮体式のペロブスカイト太陽電池。この共同実証実験に、北区としても民間事業者とご協力、連携をとらせていただきまして、今回、閉校となっております旧清至中学校の跡地内の学校のプールをご活用いただいて、1年間の実証実験をしております。

積水化学工業株式会社、エム・エムブリッジ株式会社、そして区内事業者であります恒栄電設株式会社の3社が共同開発している太陽電池であります。このフィルム型のペロブスカイト太陽電池は大変軽量で柔軟という特徴によって、従来のシリコン型太陽電池とは設置が難しいところでもしやすくなるという、そういった技術だと伺っております。

再生可能エネルギーの導入量を拡大していく中では、区としてもご協力、連携をとらせていただきながら、区としての環境施策の中にも将来的な展望として連携がとれたらいいなという思いを持っています。

続きまして、二点目が、北区の環境ポータルサイトがいよいよ開設となりました。

これまでも3月の末からポータルサイト開始しますということで、ご案内はSNS上でもさせていただいておりましたが、いよいよ公開となります。

具体的にですね、例えば省エネ機器の導入、購入費補助、助成金の制度の一覧ですとか、そういったものがすぐにわかりやすくなる。

また、動画等も含めて環境学習のツールを載せさせていただき、区の環境に関する情報をわかりやすく、区民の方々、事業者の方々に発信をしていきたいというふうに思っております。

これまで事業者、区民の方々に行っていたら、さまざまな環境アクション。イベント、講座、助成金など、お役立ち情報たくさん載せていますので、ぜひご覧いただきたいと思っております。動画等も入っていますので、子どもたちにも見てもらえたらなというふうに思っております。

こういったことを通じて、ゼロカーボンシティに向けた区の取り組みを強化していきたいというふうに思っています。

続きまして、同じく経済に関してであります。マンホールカード第4弾。

これまでしぶさわくん、そして清野とおるさんの自画像、それとのらくろくん。これに続いて第4弾といたしまして、日テレ・東京ヴェルディベレーザの公式マスコットであります、リヴェルンのマンホールカードを配布開始をいたします。明日の金曜日、赤羽のスポーツの森公園で配布をいたしますので、ぜひ皆様お越しいただきたいと思っております。

次に、新たな情報発信ということで、区長就任後、様々な情報発信、この記者会見も定例記者会見、これまで年1回だったものを毎月やるということで、記者の皆様にもご協力いただいておりますが、様々な形で区政の情報を発信していきたいという思いで、今回、しぶさわくんFMの新コーナーとして、「Kanako-Vision」。月に2回設けさせていただいております。

毎月第1、第3火曜日の朝8時から約15分間なんですけれども、区内、区外で活躍をされている方々をゲストとしてお招きをし、区政に関しての対談をしていくという内容になっています。

第1話はですね、同じく女性区長として同期当選をした豊島区の高際区長をゲストとしてお招きをして、どのような北区や豊島区から東京を発展させていくか、そんな思いで対談をさせていただきます。

ぜひ皆さまにもお届けできたらなと思っておりますので、インターネットラジオでの情報発信、ご注目いただきたいと思っております。

続きまして、イベントです。

つながる医療・福祉No1の中で、5月12日、毎年民生委・員児童委員の日として活動されている皆さまの活動を、区としても一緒に発信をしていくことをイベントとして行っています。

今年は5月12日当日、飛鳥山の旧渋沢庭園の青淵文庫前で実施をいたします。

民生・児童委員、区内約320名の方々に活動いただき、地域福祉、福祉に関する高齢者、障害者、また子どもたちの相談業務、区と区民のパイプ役として、さまざまご尽力をいただいている皆様の活動を、ぜひ区民の方々にも知っていただきたいという思いで、区としてもイベントをお手伝いさせていただきます。

当日はですね、ノベルティーグッズも配布をいたしますので、ぜひ区民の方々にもお越しいただきたいなというふうに思っております。当日は、しぶさわくんと私も、一日民生委員として活動をさせていただきます。

ます。ぜひお越しく下さい。

そして、本日の最後は、北とぴあの大規模改修に関するご報告であります。
令和元年の検討開始から北とぴあの大規模改修について庁内検討を進めてまいりました。そして、昨年10月末、基本設計の内容が終わった段階で、当初見込んでいた改修費より大幅な増加が判明しまして、それをきっかけとして、実際に北とぴあの大規模改修の手法や内容を検討し直していく必要性が出てまいりました。

今回見直しをしてまいります大きな三点についてご説明いたします。

まず、工事費の最適化であります。これまで令和7年、8年を大規模改修をしていく予定でいましたが、当初の100億円から約190億まで見込みとしては改修費が高騰している。

これはもう北区に限らず、全国的に建設資材の高騰等の影響を受けておりますが、この数字が出てきた時点で、やはりこのままこの金額で、190億で進めていけるかという判断に庁内で検討し直しました。改修内容の見直し、また手法についても民間活力を使わせていただきながら、その手法も含めて再検討し、190億まで上がってしまった金額を少しでも効果的な活用の仕方、この金額にまでならないような検討ができないかということ、令和7年、8年で計画の見直しをかけていきたいというふうに思っております。工事費の見直し、手法、さまざまな手法を活用して、少しでも効果的、効率的な改修ができないかということが一点目。

そして、二点目がですね、この間、令和7年、8年を全館閉館で全部を閉じて改修していくということを区民の皆様、また利用者の方々にお伝えをしてまいりましたが、それに対する様々なご意見が公表後多くありました。

地域からのご要望、要望書等の提出も、この間いただいていた中で、2年間丸々閉館していくことではなく、一部ずつの改修をしながら、居ながら改修での考え方ができないかということ、年末から年始にかけて庁内的に検討し、休館期間の少しでも短くしていくことの努力をしたいという思いであります。

コロナ禍4年弱の中で、様々な地域活動が、コミュニティ活動が全国的にできなかった。もちろん区内の活動も色々止まった。その後、コロナ後ですね、また同じようにコミュニティ活動を再開することの大変さというのを実感した中で、同じように北区内で、最も大きいコミュニティ施設、また文化施設である北とぴあを2年間丸々止めてしまうことへの危惧をですね、庁内的にも感じ、少しでも利用していただきながら解消していくことをもう一度検討したいという思いで、閉館期間の再検討を項目として挙げました。

そして最後は、更なるにぎわいの創出といたしまして、北とぴあ以外の王子駅周辺まちづくりの検討がずっと進んでおります。また、昨年のまちづくりの基本計画の中では、新庁舎と、また日本製紙、サンクスエアの改修部分、こちらを先行地区として、先行実施地区として再開発の計画が区民の方々を含めて様々な協議体の中でやりとりをさせていただいていました。

一つですね、やはり日本製紙が売却されるという情報が昨年の夏にわかりまして、これまで区として新庁舎と、そして隣のサンクスエアのその後の改修とか、その後についての想定が、売却によって大きく商業施設のあり方が変わってくるだろうということも想定した時に、やはり北とぴあの機能が、新庁舎

やその後売却されてきてくるサンスクエアの後の商業施設、もしくは施設そのものとの内容の連携をしっかりと検討し直す必要があるのではないかということで、単体での考え方からまちづくりに位置付けて、機能等の検討をし直したいと思っております。

王子駅中央口前の新庁舎、またサンスクエア部分の先行実施地域、地区と、もう一つ、北口街区として、昨年の10月に共創会議の中で、北口街区についても再開発の考え方を進めていくということは、お示しているんですけども、この中に、北口街区の中に北とぴあも一部位置づけて、北とぴあや北本通り沿い、そして駅の向かい側、三角公園を含めた北口街区全体のまちづくりについて、先行実施地区の後に検討を開始をしていく考え方をお示しておりますが、どちらにも北とぴあの機能を、やはり全体のまちづくりの中で置き換えて検討していく必要があるかなということでもあります。

王子駅全体のまちづくりが本当に今進み始めている中で、北とぴあの存在は本当に大きいので、同じような内容のものが、庁舎の中とか、もしくは新しくできる商業、住友不動産が移転購入先としてもう公表されておりますが、建てられる施設の中がどうなっていくかということをしかりと権利者の皆さんと協議しながら、庁舎や北とぴあの改修内容を検討していきたいなというふうに思っております。

これら三つのことを、大きな三つについて、改めて令和7年、8年の2か年をかけて、庁内、また関係機関の方々とも連携をし、改修内容を決定させていただきたいと思えます。

あわせてですね、2年間、令和8年まで何もやらないかということではなくて、やはり給排水ですとか電気、空調、そういったもので改修が必要なものについては、この3年間についても適宜対応していくことで、区民の皆様の安全・安心を守りながら施設運用、利用を継続していきたいというふうに思っております。

この件に関しましては、区民の方々、また利用者の方々、そして北とぴあの施設に入られている事業者の方々に大きな変更ということで、さまざまご負担をおかけしたり、ご迷惑をおかけするかと思えますが、ぜひそこはしっかりとした説明をさせていただきながら、ご理解をいただいく努力をしたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、大きなきっかけとなりましたのは、資材高騰による改修費の高騰でした。

私は区長就任後、やはり自分も主婦ですが、今まで4年、5年、計画を考えてきた中で、100億が190億になったから仕方ないね、じゃあそのままっていうことは、やっぱり仕事の仕方として職員の皆さんとも伝えてはいるんですけども、必要に応じて勇気を持って事業は止めたり、変更を検討するっていうことは、これからの変化の激しい社会情勢の中で必要ではないかというふうに説明をさせてもらっています。

例えば、個人で家を建てるよ、建設費を5,000万、最初5,000万で建てようと思ってたけれども、いろいろ計算していくと9,000万になっちゃったって。でもそうなった時、個人だったら仕方ないから9,000万で家建てようって多分ならないと思うんですね。

なので、そこでもう一度立ち返って、じゃあ当初の5,000万に近い金額、何を優先的にして何を我慢して、どんな工夫をしたら、当初の見込みの金額でどんないいものができるかなって、多分、個人の家計だったら皆さん考える。その考え方と一緒に、実際にこれだけ資材高騰で改修費が上がってしまったものを、どうやって努力と工夫で、その費用を抑えながら、必要な役割、またコミュニティをつくっていくかということ、この2年かけて努力していきたいなというふうに思っております。

いろんな意味で関係各位の皆様にご負担をおかけしますが、ぜひご理解をいただき、これからのより良いまちづくりと北とぴあの利用拡大に向けて、努力をしていきたいというふうに思っております。よろし

くお願いいたします。以上です。

【司会】

ありがとうございます。それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。質問の際には、挙手の上、職員が持参するマイクを使ってご発言のほどお願いいたします。ご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【やまだ区長】

はい、どうぞ。

【質問者 読売新聞】

読売新聞のナカムラと申します。お願いいたします。

太陽電池のことについて伺いたいですけれども、先ほど区としての環境施策でも将来的な連携がとれたらという話をおっしゃっていましたが、具体的に何か現時点で考えてることがあれば伺えればと思います。

【やまだ区長】

そうですね、これもまだまだ、この実証実験、1年間、4月から始まったものなので、開発をされている3社の皆さんがどんな形で商品化、製品化していけるかっていうところにもよるので、私たちとしてはそういった製品化された時にやはり勉強させていただきながら、再生可能エネルギーとしての活用の一つの方法、手法として活用できればなっているふうに思っています。

特にですね、やっぱりプールの上で使えるっていいですよ。区内の小中学校、プールとして使っている期間は約年間で3か月。それ以外の期間、こういったものが使えるっていうのはいいなっているふうに思っていますが、こういったことができるかどうか、まずは実証実験、企業の皆さんの実証実験の中で製品化された後の検討になるので、まだまだはっきりしたことは申し上げられないんですが、今、プールの上で実証実験、水の上でも発電していけるっていう、この機能というのは非常に素晴らしいなというふうに思っているんで、そういった視点を持って検討などもできたらいいなっていると思います。

【質問者 読売新聞】

ありがとうございます。あともう1点、北とぴあの大規模改修の再検討について伺いたいのですが、先程のコミュニティ活動の支援という項目の中で、地域からの要望書の提出ですとか、様々な意見が多かったというような話があったかと思うんですが、具体的にどれくらいの規模のどのような要望があったのかというのを伺えますか。

【やまだ区長】

すみません、ご要望の数として集計をここで何名からということは今持ち合わせてなくて申し訳ないんですが、要望書として出されたもので、王子の町会・自治会連合会、また商店街連合会、それと王子の北とぴあと王子銀座商店街、また法人会、商工会議所、そして青年会議所、それらの企業、団体の方々は、北とぴあに入られてる方々ですが、町会・自治会や商店街連合会や産業界含めた連名での

要望として、やはり2年間活用できないということの経済的な損失、そして区民の方々の利用の機会損失、そういったことへのご意見、ご要望。なので、2年間止めないでほしい、この止めないでと言うのも、期間の再検討をしてほしいということと、やはりまちづくりと連携したにぎわいをつくってほしいというご要望がありました。

【質問者 読売新聞】

はい、ありがとうございます。

【司会】

他にご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【やまだ区長】

はい、お願いします。

【質問者 NHK】

はい、すいません。NHKです。よろしくお願いします。

まず、ちょっとこの北とぴあの関係でいくつかちょっと確認をさせていただきたいんですけども、これ、既に4年前から計画を進めてきていて、既に建設工事についてはある程度進んでいたということでしょうか。現状どこまで行っているのか。

【やまだ区長】

基本設計と実施設計の設計委託については、3年間での契約を済ませています。その中で金額が出てきたということであるんですけども、令和4年、令和5年で基本設計の委託料についてお支払いをしています。残り令和6年度は、3年間の債務負担行為ですので計上はしておりますが、設計として4億4,000万で、そのうち1億4,000万が実際に契約の中でお支払いをしている。残り、今年令和6年度3億、約3億についての実施設計については、協議をし直しをさせていただくことでご相談を、協議を進めている段階です。

これまで基本設計などでいただいていた成果物としては、これからの改修に向けた参考として活用していけるものと考えてはいます。

【質問者 NHK】

わかりました。なかなか資材費の高騰とかがどんどん進んでいる中で、見込み難しいところではあると思うんですけども、これもう設計までいってしまっただけからの中止というのは、行政としては結構なことなんでしょうか。

【やまだ区長】

なかなか、どこまでで止めるか、止まるかっていうことは難しいところだと思うんですけども、そんなに多くあることではないです。先ほども申し上げました通り、本当に社会情勢の変化が激しいので、そういったものに行政として臨機応変に対応していくっていう体質、体制を構築していくことはとてもこれから必要だと私は思っています。

区内では駅周辺まちづくりが赤羽、王子、東十条、十条はもう終わりますが、それから施設の大規模改修、そういったものが多くこれから始まりますので、そういった中で、何が一番ベターか、ベストかベターかということをしかりとすぐに立ち止まって見直しをして、無駄なく効果的に進め直していくことこの体制をつくりたいなというふうに思っています。

なので、実際に基本設計の中での委託料が無駄になるんじゃないかというお声も出てくるかもしれませんが、それ以上に 190 億で仕方ないということで進めていくことの損失の方が大きいかなという思いと、やはりこの間、基本設計でいただいている内容については、全てではないですが、しかりとこれからの改修全てを止めるわけではありませんので、改修方法の見直しの時に活用していくということで、無駄なお金にはならないように努めていきたいなというふうに思っています。

【質問者 NHK】

そのあたり、理解はできるところなんですけど、一部ではやはりその、判断がちょっと遅かったんじゃないかとか、そういった声も一部にあるかなと思うのですが、そのあたりについてはいかがでしょうか。

【やまだ区長】

そうですね。具体的な金額が出てきたのが今年の 11 月の頭です。基本設計を終えて、それを基にした積算をしていくと、このぐらいだと。その数字が出た時点で庁内的には改めて検討し直す方向で、それはどういった検討のし直しをするかということも含めて、この金額をそのまま看過できない状態だっという財政面も含めてですね、そこから始まりました。

そういった意味では、遅いか早いかということしていくと、全体の中では、実際に設計、基本設計までできていくことでいけば遅いのではないかとご指摘は出るかもしれませんが、やはり具体的な数字が見えてきた段階ですぐに対応をしていくということで、決して遅いとは私の中では思っていないです。

【質問者 NHK】

契約自体は去年の 12 月に締結をされているのかなと思うんですけれども、やっぱり 11 月でもう既にプロポーザルとか進んでいた中では、ちょっと全体像を見直し検討するには、止めるにはちょっと 12 月の契約はもう難しかったという感じでしょうか。

【やまだ区長】

基本設計、実施設計の契約自体は、令和 4 年に契約をしております。その中で 1 年目、2 年目進んで、3 年目が令和 6 年の基本実施設計の中で、その前に一度見直しをかせさせていただきたいということで協議を始めています。

【質問者 NHK】

わかりました。ありがとうございます。先ほど区長もおっしゃっていたんですけれども、今後その大きなまちづくり、かなりたくさん控えていらっしゃる、当然公共施設の改修っていうのもいろいろあると思うんですけれども、庁舎の問題もありますけど、今後の資材高騰の影響っていうのはどのように考えていらっしゃいますか。

【やまだ区長】

そうですね、読みが難しいところではありますが、避けて通れない部分として、それを考慮したまちづくりの検討、施設改修の検討をしっかりとしていかなければいけないというふうに思います。

先ほども申し上げたとおり、社会状況はどのように変化するかわかりませんので、その変化に伴って、その都度、見直しや最適化できるような体制をまず区役所としてつくっていくということが、どのまちづくりについても、施設改修にしても最も重要なことということで、今回このケースをはじめとする様々なものについての体制づくりを構築していきたいというふうに思っています。

読み、想定をですね、広げていくということは大切なんですけども、どうしても想定しきれない部分が起こるということですね、コロナも含めて学んだところですので、対応をしていけるような区役所をつくっていくということで乗り切れたらなと思っています。

【質問者 NHK】

なかなか各自治体ではやはり予算をどんどん増額してですね、何か気が付いたら2倍、3倍に増えていたという話を結構建設費ではよく聞くんですけども、北区の方針としてはやはりこう、ギリギリになっても、止めてでも見直しは鋭意進めていくというお考えでしょうか。

【やまだ区長】

考え方として、金額だけではないと思っています。必要な金額についてはもちろん増額していかなければいけないと思いますが、特に今回の北とぴあに関しましては、周辺の王子駅再開発が、様々な環境が変わってくるとか、進み方が具体的に出来ている中で、それを踏まえた点。それから利用に関しての区民の方々の声、こういった総合的な判断としています。

資材高騰や費用が高騰する、だから全部やめるということではなくて、議論としては複合的な観点から判断をしました。

これはですね、区有施設や区有地の利活用もですね、例えば、効果的に寝かす時間をもう極力短くしてお金を生み出していこうとか、そういった努力をしながら、それと同じ発想で、やっぱりこの手法が、改修内容の手法がコロナ前からの検討ですので、やはり環境や状況が変わる中で、どんな機能が必要かとか、手法が、新たなものが出てきているかっていうこともですね、見直していくことに価値があるという判断であります。金額が上がったからそれだけということではなくて、それも大きな視点ではありますので。はい。すみません、うまく言えなくて

【質問者 NHK】

金額が上がったところで見直すというのは、一つ大きな判断だと思いますし、それは方針として示されているのはいいと思うんですけども、なかなかこれからどんどん上がっていく中ではいろいろ大変だと思うんですが、今回のこの一旦中止をして計画を見直すことによって、先ほどその手法も考えていきたいということだったんですが、190億まで膨らんだコストをどのぐらいまで下げたいとか、あと、その手法として、例えば一部のフロアを貸し出して、ちょっとお金を得るとか、いろんな方法はあるかと思えますけれども、そのあたりはどういう構想を考えてらっしゃいますか。

【やまだ区長】

はい。まさにその内容を2か年かけて検討していきたいというふうに思っておりますが、手法として、

何が必要か、何は絶対残さなきゃいけないか、ここは考え方として、優先順位としては少し下がるねとか、その機能面としてのこれまでの検討でもありますが、北とぴあの利用率の高いスペース、機能、こういったものをなども踏まえてですね、何の機能を残す、もしくはさらに良くする、その強弱をもう一回見直していくことと、それとももちろん先程申し上げた、庁舎やサンスクエアのあとの施設での機能との見合い。それと、民間の事業者の活用。フロアをそのまま提供して、改修も含めて民間の方で活用してもらうとか、様々な手法があると思いますので、今までも検討してきましたが、よりそういったものを研究しながら考えていきたいと思っています。

一つの目安として 100 億という目安で来ておりますので、財政計画上、目安としては当初の 100 億ということが一つの基準になるかなというふうには思っています。これらも含めて 2 年間の検討の中で詰めていきたいなというふうに思っています。

【質問者 NHK】

ありがとうございました。

【司会】

他にご質問はありませんでしょうか。

【やまだ区長】

はい、どうぞ。

【質問者 朝日新聞】

朝日新聞のホンダと申します。今日はありがとうございました。先程の北とぴあの件で、ちょっと重複する部分もあるかと思うんですけど、教えていただきたいんですが、今 1 億 4,000 万円を委託事業者にもう払っていると。令和 6 年度で、その実施設計にかかるお金の約 3 億について協議を進めていると言うのは、まだお支払いはしていないと。

【やまだ区長】

そうですね、していません。

【質問者 朝日新聞】

今後、この約 3 億円分はどうなるのか。

【やまだ区長】

ここがまさに協議中ですので。

【質問者 朝日新聞】

まだ分からない。

【やまだ区長】

はい、そうですね。

【質問者 朝日新聞】

この見直しによって新たにかかるコストっていうのはどれぐらい想定されるんでしょうか。

【政策経営部長】

すいません、ちょっと若干補足させていただきますけど、そもそも今回の大規模改修はやはり老朽化対策っていうところから始まってきていますので、やはり老朽化している部分の何かしらの手当てはしていかなきゃいけないというふうには思っています。そういったところの対応については、今回設計していただいたものの部分が少し生かされるんじゃないかなというふうに思っています。

そういったところも含めて協議なんですけれども、そういったところを最低限やらなきゃいけない部分が出てきますので、そこをベースにして、それプラスアルファ、どのぐらいのところまでやっていくのかっていうところを、この2年間かけて検討していきたいと。

区長の方から100億っていう数字もありましたけれども、そういった枠組みの中で、老朽化対策をまず一番にした上で、どこまでやっていくのかっていうところを検討していきたいというふうに思っていますので、当面今回を見送ったことによる新たな経費負担っていうのは、今のところ、今の時点では想定はしていないというところでは。

【質問者 朝日新聞】

ありがとうございます。

【やまだ区長】

はい、どうぞ。

【質問者 東京新聞】

東京新聞のスズキと申します。お願いします。

私も北とびあ改修の件で、これも重なる部分あるかもしれないんですけれども、今回その老朽化は直さなければいけないっていうのはもちろんなんですけれども、資材の高騰がストップをかける原因の一番大きな部分だったと思うんですけど、今回止めたからといって資材の高騰が今後も続く可能性があると思うんですけど、終わる見込みもないかなというのであったりとか、2年間休館して、が一って改修した方がたぶん早く終わるっていうところが、居ながら改修になると工期も延びてっていう。金額が一旦止めたからといって、今後増えていく部分っていうのもかなり多いのかなと思うんですけども、その辺の見通しだったりとか、それも含めて100億でもう一回できるように検討し直すってことでよろしいんでしょうか。

【やまだ区長】

100億がひとり歩きしちゃうと困っちゃうんですけど、基本的に資材高騰は、これからも一定年数続き、その後どこまでいくかっていうことは読めません。それがあって、今改修していく内容をどこまで改修するのか、どういったことを考え直すのかっていうことで、トータル的なコストをしっかりと抑えていき

いと思っています。

なので、空調ですとか電気とか、基本的な老朽化して変えなければいけないところに節約するとかでは、そこはできないと思うんで、それ以外の、機能としてどんな工夫をすることで、少しでも圧縮していくことができるかなっていうことを考えたいと思っていますので、これからも資材の高騰を前提とした費用の圧縮方法を検討したいと思っています。

それと、やはり期間が延びるっていうことに関しては、もちろん、財政的には、改修費的には上がる可能性はありますが、やはり区民の方々の利用を止めないっていうことは、一つの、これは機会損失ということで、区民の方々へのサービス提供に対する費用だと。

区民の皆さんは他の区で施設を借りて、プラスアルファのお金を使って、こういったことを使えない分、別で手配をされる。そういった手間の分を考えますと、しっかり区としては施設を少しでも活用しながら、していただきながら改修をしていくということが、公共施設としての役割として考えていきたいなというふうに思っています。

期間が長くなる、資材高騰が継続されるということを踏まえた中で、何が必要で、何は少し我慢してとか、こういうやり方で抑えてとかっていうことを2年かけて検討していきたいというふうに思っています。

【質問者 東京新聞】

はい、わかりました。令和7年と8年に基本設定をやり直すということですね。

【やまだ区長】

そうですね。あの改修内容を検討していく期間を7、8で考えています。

【質問者 東京新聞】

それまでの間は、給排水とか電気の部分が

【やまだ区長】

必要なものについては随時応じて改修していきます。

【質問者 東京新聞】

もう進めていくっていいことですか。

【やまだ区長】

はい、大丈夫です。

【質問者 東京新聞】

わかりました。ありがとうございます。

【司会】

他にご質問はありますか。

【やまだ区長】

はい、どうぞ。

【質問者 都政新報】

都政新報のイシイと申します。

【やまだ区長】

お世話になります。

【質問者 都政新報】

北とぴあの件でお伺いしたいと思います。区長の施政方針演説などで北とぴあの大規模改修について触れていたと思うんですが、それができなくなると、それに対する責任ってどのように感じているのか教えてください。

【やまだ区長】

そうですね。責任の考え方は二つあると思います。まず、改修そのものの内容を、やはり改修計画の見直しによって、しっかりとした内容で改修が実現していくことをまずしっかりやっていくこと。それと全体の中での財政健全化ということであれば、そこも止めることでの責任というふうに私はむしろ感じています。

この 190 億という金額が区民の方々にとってやはり大切なお金ですので、それがもう一度適切に、もうちょっと工夫して安くできないかというふうに考えることが、むしろ私としては区民に対しての責任かなという思いの方が今回は強かったです。その責任の取り方。

【質問者 都政新報】

特に給与をカットとか、考えたりしていますか。区長の給与をカットするとか、そういった責任の取り方というのは考えていますか。

【やまだ区長】

特に考えてないです、はい。むしろですね、利用を止めないとか、区民ニーズに応じていくっていう意味では、やっぱり区の努力でそのお金を抑えたり、利用しながら改修していくっていうことをこれからやっていく、さらに努力するっていう意味では、決してマイナスの改修の見直しではないと個人的には判断しています。前向きな見直しだと思っています。

【司会】

他にご質問はいかがでしょうか。よろしいでしょうか？ それでは本日の定例記者会見、これにて終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【やまだ区長】

ありがとうございました。